

# ゆたかな労働と 生活の場をめざして

発行: 社会福祉法人ときわ会 〒187-0032 小平市小川町 2-1159 番地  
URL <http://www.asayake.or.jp>

あさやけ  
だより  
No. 457

あさやけ作業所	小平市小川町 2-1159 番地	TEL 042-345-4575
あさやけ第二作業所	小平市小川町 2-1159 番地	TEL 042-345-1564
サングリーン	小平市小川町 1-943 番地	TEL 042-345-1585
あさやけ鷹の台作業所	小平市小川町 1-411 番地	TEL 042-346-2167
共同ホームつくしんぼ	小平市小川町 1-944-30 番地	TEL 042-342-7550
共同ホームこげら	小平市上水南町 2-21-17 番地	TEL 042-325-8716
共同ホームサンライズ	小平市小川東町 5-2-11 番地	TEL 042-346-0472
地域生活支援センター「あさやけ」	小平市小川東町 4-2-1 番地	TEL 042-345-1741
	小平元気村おがわ東 1 階	
共同ホーム一歩	小平市花小金井 7-2-24 番地	TEL 042-349-0306
あさやけ風の作業所	小平市中島町 3-8 番地	TEL 042-349-2366
共同ホームはやぶさ	小平市小川町 1-497-13 番地	TEL 042-313-6269
共同ホームさらさ	小平市小川東町 5-2-12-1 番地	TEL 042-313-2217



チャレンジドカップ決勝大会に行ってきました。早朝から夜遅くまで大がかりなイベントでした。

## 焼き菓子日本一に挑戦

あさやけ風の作業所

仲間紹介

ひとりひとりが太陽



初めての作業所

岡本 翔史さん  
(あさやけ第二作業所)



新年明けましておめでとうございます。  
昨年は大変お世話になりました。深く感謝申し上げます。

新しい年を迎えると、わが人生をどのように歩もうか  
等々。夫々の第一歩をふみだすことと思えます。が、暫  
らくすると又、平凡な日々になりがちが、凡人の日々です。  
でも、年度の仕事はあと二ヶ月で終わります。仕事のや  
りくりと、新年度に向けて  
の準備等が沢山あります。

ときわ会にとつて今年  
は、一九七八年三月に社会  
福祉法人の認可を得てから  
四十年という節目の年にな  
ります。その年の四月、新  
築した建物で定員三十名の精神薄弱者通所授産施設とし  
て、あらたなスタートをしました。その時に入所した利  
用者のなかには還暦を迎えた人もいます。あらためてあ  
さやけの歴史を感じます。この四十年の間に作業所五六  
所、地域生活支援センター一カ所、グループホーム六カ  
所の事業所を運営する法人になりました。節目の年にこ  
れからのときわ会のめざす方向を決める「ときわ会の中

年のはじめに

社会福祉法人ときわ会  
理事長 加藤 寛二

・長期計画」を策定したいと準備をしています。これか  
ら利用者、家族、職員が地域の方々と共に、力をひと  
つにして進んでいきましょう。

今年も、健康に気をつけて、一日一日の出会いを誠実に、  
大事に歩みたいと思えます。

利用者の方々も、日々の歩みは目に見えなくても、一  
年という長期の時で見つめ、考えてみると、どなたも夫々  
に立派に変化し、成長、  
発達をしています。一方  
高齢の方々はその共に、  
老化への方向を感じられ  
るようになります。あさ  
やけの歴史の一年の歩み  
は、そうした変化が感じ  
られる程の歴史を重ねるようになってきました。

そうした事実を皆さんで共有し、いろいろと考え、助  
け合い、支えあっていきましょう。そうした一年になる  
ように願ひ、期待いたします。  
そのためにも、心身が健康でありますよう祈念申し上  
げます。

平成三十年 元旦

初めてあさやけ第二作業所  
を訪れたのは一昨年前のこと  
でした。最初に受けた印象は  
とても明るい職場という感じ  
でした。そして去年六月にデ  
イケアを紹介して、あさやけ第  
二作業所に入所しました。  
仕事は生活協同組合の購入  
チラシのセットをしていま  
す。最初は挟み込みに慣れる  
のに精一杯でしたが、周囲の  
サポートもあって何とか頑張  
れました。それから結束を  
したり、重りをやっています。  
辛い職員の人たちや周りの仲  
間に支えられて今は仕事を楽  
しんでいます。

岡本さんは、以前は遺跡発  
掘の仕事や八百屋の仕事をし  
ていました。  
現在はデイケアに三日、作  
業所には週二日通っています。  
仕事には実直に取り組ん  
でいて、チラシセット作業の

基本であるはさみ込み、セッ  
トされた商品を計りチラシの  
過不足を確認する作業、完成  
品を結束して台車に積み込む  
作業と幅広く携わっていま  
す。休憩中も大好きなサッ  
カーをはじめスポーツの話な  
どで、いつも笑顔で楽しそう  
に仲間と話していてムード  
メーカーでもあります。そん  
な姿から仲間からは、「存在  
感があるから、いつもいるよ  
うな気がする。」と言われる  
程、まわりとも打ち解けて作  
業所生活を送っています。  
お金を貯めて好きなブラン  
ドの財布を買いたい。秩父の  
温泉に行きたい。モルディブ  
に行きたいなど、たくさんの  
夢や希望を持っています。  
そして今後は作業所の通所  
を増やし、ゆくゆくは就労す  
ることが目標です。

**弟の還暦に寄せて**  
 修も本年二月に還暦を迎える事が出来るようになり感謝に堪えません。  
 修は、昭和三十三年二月に生まれ、生後一年で小児マヒの診断を受けて両親がうなだれた姿を幼かった私も覚えています。  
 当時は、菌が伝染するかもしれないので検査が終わるまでは隔離病棟に入れられていたそうです。慶応大学病院にも行き、父の給料では払いきれない程の入院、治療費がかかっていたそうです。その後、伝染の菌は無いとの診断で通院をするようになりました。  
 脳性マヒで左半身の自由が効かないながら小平養護学校に入学が出来て通うことが出来るようになり一人でも自転車に乗り遊ぶ事が出来るようになりましたが、トラックに轢かれた事、山形でスキーで怪我をした事色々な事がありました。成長して「あさやけ作業所」にも入れて頂き、仕事を

**六十歳おめでとう**

き、体に障害はありますが、社会に少しづつ馴染んでいけるようになって来ました。  
 両親は、将来を心配してと思いますが、思い切って我が家から出るし、一人で生活出来るように現在の「共同ホームこげら」にお世話になって共同生活にも彼なりに馴染んでいける姿が見られるようになりました。「あさやけ作業所」の皆さんとの毎年の旅行も楽しみにしているようです。  
 この間、「あさやけ作業所」の職員の皆様には気難しい性格で大変ご迷惑をお掛け致していると思っております。また「共同ホームこげら」の皆様にも大変お世話になり、皆様に感謝です。  
 昨今は、「共同ホームこげら」から週末には自宅に帰り両親の仏前に手を合わせています。  
 両親も他界し兄弟二人となりましたが、本年「還暦」を迎える修のお祝いにあさやけ作業所の皆様で行って頂ける事は嬉しく思っております。

野口 正夫



**成人おめでとう**  
 元彬が生まれた二十年前の一月十日の朝の喜びは今も忘れる事はありません。母さんと父さんの子どもとして生まれてきてくれて本当にありがとうございます。  
 散歩したり、ご飯食べたり、お風呂に入ったりと家族揃っての、ごく平凡な日々の生活が楽しいです。  
 高校を卒業して、風にお世話になることが決まり、お給料を持って帰ってきてくれた時は感動しました。  
 元彬の発達に問題があると分かった時はとても辛かったです。元彬がおしゃべりをできるように

なる夢を今でも見ます。障害の原因が父さんにあるのではと自身を責めることもしばしばです。元彬が癪癪を起こして、自分の頭や周りの人を叩くと、とても心が痛みます。  
 こんなに喜怒哀楽に満ちた二十年間でしたが、大きな病気や事故もなく、この成人の日を迎えることができたことを心から幸せに思います。  
 この二十一年間は元彬だけでなく、父さんを父親として成長させてくれました。  
 これからも、男同士、一緒に成長していきましょう。  
 宮地 元彬

**あさやけ作業所**



**あさやけ風の作業所**

**成人の日に寄せて**  
 手がかる兄に比べ物足りないさを感じたツケなのか、一歳前に不安材料は増えるばかり。知人のいない土地で落ち込む間も無く、娘を理解するために、情報収集にネットを覚え、療育本を読みセミナーを受けた。十五年のペーパードライブも返上、たくさん泣き、頭を下げて回った。娘や自分の想いを伝える図太さも身についた。家族や近所ママ達が支えてくれた。娘のおかげで母の世界は広がった。他人と比べず小さな成長を喜び感謝する事を、娘は私に根気よく教えた。娘も家族以外の愛情を受けゆつくりと成長した。希望するあさやけ作業所にも入所できた。色々あったがなかなか良い二十年度だ。  
 成人の日とは大人になった事を自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ます日だそう。残念ながら娘にそんな自覚はない。なので子離れに向けスタートする日にしよう。親亡き後も娘が娘らしく暮らせるよう母は制度やお金の勉強でも始めよう。娘が巣立つ日に子離れが間に合うように。  
 野上 貴子

**二十歳の知尋へ**  
 知尋が生まれた時、周りのみんながとても祝福してくれて、知尋の幸せな人生が始まりました。  
 そして、あすの子園や学校でお世話になった先生や友達。おこりんぼのお兄さんお姉さん。ゆうやけ子どもクラブの皆さん。行動援護のお兄さん。あさやけ作業所の皆さん。その他にも本当に沢山の人の人達のおかげで、知尋の人生は、楽しい事嬉しい事がいっぱい輝かしい人生になりました。  
 知尋は元氣過ぎて、お店の中で走ってしまったり、怒ると物を投げたり、人や物を叩いてしまったり、困る事も時々あるけれど、でも知尋は身体が丈夫だし、感情が豊かだし、意思の疎通もあるし、好きな事楽しめる事も沢山あるし、優しく陽気だし、知尋と歩いた二十一年は、おかあにとっても本当に楽しく嬉しくて幸せな日々でした。  
 知尋！おかあの方に生まれて来てくれてありがとう。暖かい人達の所へ連れて行ってきてくれてありがとう。これからも元氣に楽しく歩いて行こうね。  
 知尋のおかあ小栗真美

## サングリーン5周年を迎えて

2012年1月にあさやけ第三作業所と福祉工場エバグリーンが統合してできたサングリーンは、就労継続支援B型事業と就労移行支援事業を併せもつ多機能型事業所として再スタートしました。

現在、B型30名、移行4名の利用者と職員で日々の作業に取り組んでいます。サングリーンでは、前身の作業所で二つの柱であった「縫製事業（きょうされんふきん等）」、「米ぬか石鹸製造事業」を踏襲しながら、新たに昼食会づくり等の「調理作業」、ダイレクトメールの封入封緘作業を中心とした「受注作業」を行っています。就労移行支援事業では15名のメンバーを送り出してきました。

これからも障害のある人たちが働き甲斐や生きがいをもって働けることを保障しながら、サングリーンでの活動を通して自分の持っている力を高め、豊かな生活が送れるように支援できたらと思います。

## 利用者の声 【サングリーン5周年記念文集より】

### 私とサングリーンのこの頃

宇都宮 健二

私は長いこと、エバグリーンの頃から今の作業所にいます。石鹸の製造と下請の仕事をしています。初めエバグリーンに入る時、この人たちの所で一緒に作業をしたら楽しいし、何かいいことがある予感がしました。楽しいことがある反面、苦しいことも度々ありました。

自分の中での目標の一つ、やめぐせを直すという面でも、よい勉強になっています。サングリーンになってから、石鹸製造でも下請の作業でも、色々なことをさせていただきました。ちょっと頑張ることがあるため、自分の仕事になるペースがつかめたら良いなと思います。スタッフの方々にも非常にお世話になり、様々な面での手厚い支援があります。スタッフの人とのコミュニケーションや笑い話など、よい人たちが多くいると思うことが多いです。ありがとうございます。年上のスタッフやメンバーからも、年下のスタッフやメンバーの方々からも、自分なりにいい人生勉強が出来ているように思います。

### わたしとサングリーン

清水 慶子

かれこれ丸二十年勤めてきました。病気をしたりして、ここまで頑張ったのも皆さんのおかげです。ここまで来て幸せです。下請班から縫製班に移って働いたのも、大変だと思わないでくれたのも職員さんたちのおかげでここまで来ました。私もこれからは無理をしない程度に頑張りたいと思います。力の続く限り。



## 第8回チャレンジドカップ 審査員特別賞 受賞!!!



昨年12月9日、第8回チャレンジドカップの決勝大会が横浜の製菓学校にて行われました。この大会は障害者によるパン・焼き菓子の日本一を決める大会で、風の作業所のこすもす班が、焼き菓子部門に看板商品の「スコーン」で挑戦しました。全国47チームの応募から1、2次審査を突破したパン、焼き菓子部門の各8チームが会場で実際に作り競いました。

当日の大会に出場したメンバーは村上祥子さん、岩田ななみさん、柏木宏恵さん、鈴木権大さんです。決勝大会への進出が決まってからは、当日を見据えた練習を班内で重ね、直前には緊張感を出すために審査員に見立てた見学者がいる中で作る練習も行いました。本番の菓子作りがはじまると、あちこちから「〇〇チーム計量を開始します!」といった掛け声が飛び交い、私たちも少し圧倒されながらも声を出しながら練習通り作業を進めました。いつもと違う環境、そして、たくさんの人に見られながら作業をすることは、私たちが想像する以上のプレッシャーであったはずですが、そんな状況でも「いつも通り」のスコーン作りができたことには、驚きと素直に嬉しかったのです。

こすもす班で日頃大切にしていることは、『利用者が主体となって菓子作りを行うこと。一人一人の役割が班全体の作業に繋がっているということ。』である。審査員の方からこんな感想をいただいた。「みんな障がいの程度がちがうのだから、審査員はそこを見ないといけない。健常者にとって簡単なことでもすごく一生懸命。車椅子の人でも一生懸命できることをやろうとしていたことに感銘を受けました。そういう人に施設の人が我慢強く教えていることにも頭が下がります。僕だったら、思わず手がでちゃうよ」

職員としてチャレンジドカップへの参加で日頃大切にしていることを伝えられた思いで胸が熱くなった。週明けの月曜日、朝会で審査員特別賞を受賞したことを報告した時には、自信にあふれた表情と、でもだからこそ「金メダルがほしかった」と次へ気持ちを向けている姿が見られ得たものの大きさを感じた。

あさやけ風の作業所 石川 聖子

車椅子の人の参加は初めてと聞いて、たくさんの方々に作業を見てもらうことは緊張した経験でしたが、みんなと協力しながら作業が出来て、審査員特別賞も頂けてうれしかったです。

岩田 ななみ

少し緊張したけど計量を上手に出来た。またチャレンジドカップに出場して金メダルを取りたいです。

村上 祥子



## 二十歳おめでとう

### 成人の日を迎えて

「成人式、行く！」人が集まる場が苦手な息子が宣言しました。入学式よりも卒業式よりも一番たくさんの方が集まるけど？「成人式、行く！」

さっそく市役所へ電話をかけました。「障害があるけれど参加してもいいでしょうか。」これは母が二十年間言い続けてきた言葉です。この言葉を言ってみたことから始まったご縁と機会がたくさんありました。成人式には無事に友だちと笑顔で出席できました。これまで支えてくださった、見守ってくださった皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。

二十歳は親にはやつとたどり着いたゴールですが、息子には始まりです。引きこもりがちな息子ですが、作業所から帰ると家でお気に入りの絵と色を組合せて楽しそうです。絵に色を塗るペンはお給料で買いました。土曜の夜はオールフリーで父と乾杯です。行事は苦手でも、自分なりの毎日を楽しんで過ごしてほしいと思います。

無理せずね。でも、がんばってね！

山下真理（山下晴信 母）

## コダイラブランドの商品紹介

### 手染めシルクストール (あかね、さくら、たんぽぽ)

やわらかなシルクシフォン、コンパクトで使いやすいサイズです。春らしい3色に染めました。

(タンポポは数に限りがあります。)

シルク 100% 30 × 130cm



さくら

たんぽぽ

あかね

あさやけ鷹の台作業所 042-346-2167 ブログ: <https://blogs.yahoo.co.jp/takanodaiasayake>

### 廃品回収のお知らせ

12月の廃品回収の回収量は12,379kgでした。内訳は新聞9,115kg、雑誌・ダンボール3,264kgです。収益は小平市の資源回収補助金も含めて206,472円でした。

**次回は2月17日（土）が回収日です。**

雨天の場合は中止とさせていただきます。